

堅実な第一歩を踏み出すための予算

平成18年度の安曇野市の予算は、国の「三位一体改革」の最終年度を迎える中での編成となりました。

地方交付税の抑制が進み、より厳しい財政状況に対応できるような行政改革に取り組むことが求められています。また、国庫補助金の見直しや税源移譲にあたっては、自治体として、自ら考え、自ら決定する自治能力を高めていかなければなりません。このような背景のもとに、平成18年度の一般会計予算の編成は、次の3本の柱を掲げて進めることとなりました。

- ①市として実質的に初めての通年予算であることから、地域エゴにとらわれることなく高い視点で編成する。
- ②平成17年度当初予算をベースとして、経常経費・普通建設事業費とも10%の削減を目標とする。
- ③平成18年度中の市の補助金の見直しを想定し

つつ、すべての補助金について、必要性、継続性、公平性を再検討する。

「新市元年」として、性急な事業推進を避け、『さまざまな分野での基本計画などの策定や住民のコンセンサスを得る取り組み』と、『市民の皆さんが安心して暮らすことのできる環境整備』などを主眼に、新市の基礎づくりを中心に予算編成しました。予算総額は33.8億円となり、前年度の旧5町村当初予算の合計額に比べ、6.7%の増となりました。

平成18年度一般会計 予算総額 338億円

3月2日から開催された第1回定例議会で、平成18年度安曇野市予算が議決されました。今回は一般会計を中心にその概要をお知らせします。(単位は万円。1万円未満は切り捨てで掲載)

1 市の将来を皆で考え、それに向かう

総合計画の策定	900万円
公共交通問題の研究	1,000万円
地域福祉計画の策定	290万円
障害福祉計画の策定	600万円
健康づくり計画の策定	40万円
土地利用の検討	220万円
景観形成の検討	
(景観計画の策定準備)	180万円
地域防災計画の策定	540万円
環境基本計画の策定	1,100万円

2 子どもたちが安全に暮らし、健やかに育つ

給食センター(中部、南部)の建設	15億5,270万円
巡回用公用車(通学路パトロールカー)導入	171万円
小学校施設(豊科北小、豊科南小、穂高南小、穂高北小)の改修・整備	5,000万円
中学校施設(豊科南中、穂高東中、明科中)の大規模改修および施設改修・整備	1億3,100万円
保育園老朽化(簡易耐震)調査	290万円
掘金保育園用地の取得等	2億5,000万円

「安曇野市の基礎づくり」に重点配分

特集
新年度予算

特徴的な事業を5つに大別

- 特徴的な事業について、5つの取り組みとして整理しました(下図参照)。
- ①安曇野市の将来を皆で考え、それに向かうための取り組み
 - ②子どもたちが安全に暮らし、健やかに育つための取り組み
 - ③すべての市民が健康で、生きがいをもって暮らすための取り組み
 - ④安曇野ブランドを守り、生かしていくための取り組み
 - ⑤行政の効率化を進めるための取り組み
- この5つの取り組みを柱に、堅実な第一歩を踏み出すための予算としています。

特別会計 297億7,936万円

事業名	予算額	前年度比(%)
同和地区住宅新築資金等貸付事業	852万円	△53.4
国民健康保険	79億8,000万円	8.0
老人保健	92億4,430万円	10
介護保険	53億7,452万円	8.4
下水道	63億9,757万円	△15
農業集落排水事業	1億9,326万円	△5.7
上川手山林財産区	172万円	△0.2
北の沢山林財産区	41万円	△86.9
有明山林財産区	69万円	40.2
富士尾沢山林財産区	93万円	27.5
穂高山林財産区	45万円	△23.8
産業団地造成事業	5億1,616万円	△5.7
市営保養施設	6,080万円	△2.3

(単位は万円、1万円未満は切り捨てで掲載)

4 安曇野ブランドを守り、生かす

地下水位の観測等	
及び水資源対策協議会活動の強化	550万円
合併記念イベント「安曇野フェスタ」開催	1,300万円
観光地域づくり実践プランの推進	390万円

3 すべての市民が健康で生きがいをもって暮らす

AED(自動体外式除細動器)導入	960万円
民間共同作業所建設及び運営補助	1,150万円
豊岳荘改築への補助	1億8,000万円
安曇野赤十字病院に対する公的病院のあり方の検討	14万円

5 行政の効率化を進める

行政改革プランの作成	29万円
指定管理者制度の導入	3万円
電子決裁等の研究	50万円
GIS(地理情報システム)の統合	2,190万円

